

平成25年度 第4回教師力アップセミナー

H25. 10. 12

大口町立大口中学校

野口芳宏先生

【午前の部】国語の模擬授業「作文ワークの話」

今日は10月12日だが、まだ半袖の人が多い。9月は残暑というが、10月の暑さを何というか？知らない人は？（ほぼ全員挙手）教わりたい人は手を握る。（全員が手を握る）こう意欲付けをすると割合覚えている。

残暑は暑さが残っていると書く。10月は完全に秋。「秋暑」とよぶ。漢語であり、中国語だ。和語では「秋暑し」、俳句の季語である。もう残暑とはいわない。

さて今日は作文の話をする。かなり前にしたことがあるが、指導要領には次のようにある。

話すこと・聞くこと	A領域
書くこと	B領域
読むこと	C領域

このとらえかたはおかしい。学力というのは、昔から「読み・書き・そろばん」。「読み」が最初だ。

しかし、「書く」→「読む」になっている。反対だ。

「話す、聞く」だが、日本語は「聞く、話す」順だ。

話すは「表現」、聞くは「理解」だ。

普通は、理解をしてから表現する。しかし、今は、表現するために理解をするになっている。表現が目的になっている。

この表現力重視という考え方は、今の時代にとって良くないというのが私の考えだ。昭和52年以来、40年近くこの考え方が国語教育の中に入っている。

日本人は国際社会で話せない。中国人、韓国人はすごい。だから、昭和52年にひっくり返った。私は、今考えると、これはまずかったと思っている。

今、みなさんは黙って聴いている。

学級崩壊の子は聞いていない。（笑）表現している。（笑）表現力を付けて大人になるから、モンスターペアレントになる。（笑）

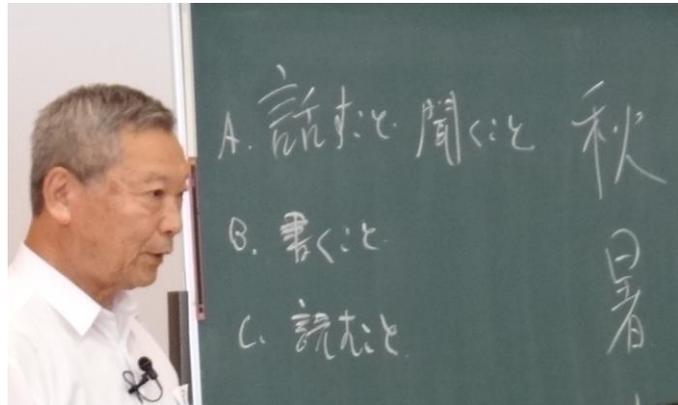
学級崩壊やモンスターペアレントは、傾聴力を軽んじた国語教育の成果だ。

今回の学習指導要領では、この流れを踏襲した。みなさんは、これを批判的にとらえ、理解重視とした方がよい。

一番の基礎は「聞く」。今の子どもは聞かない。

今日のみなさんは黙って聞いてくれているけど、知識を身につける基本は「聞く」。

たくさん読まなくては書けない。書かせることが先に来ている。読み、書き、そろばんは、読むがトップ。しかし、（指導要領では）一番下に来ている。



そういう悪口を言ってから「書くこと」を話す。(笑)

書くというのは、四つの活動の中で、もっとも高度で難しい。

私の父も元小学校教員で、校長で終わった。校長時代、うるさい保護者(母親)がいた。担任に文句を言う人だった。その子は嫌だと担任になりたがらなかったが、ある時通知表が問題となった。「これはおかしい。偏見がある。」という。担任が説明しても聞こうとしない。それで校長室へ相談に来た。

お母さんにはこう言いなさい。

「通知表の発行者は校長だ。職印のある、いわば公的文書だ。公的な疑問には公的な文書で質問しなさい。こちらは公的な文書で答える。」そう言ったら、ピタッと来なくなった。(笑) どこがおかしいか? 文書で提出しなさいと言ったら、もういいやとなる。

文字で書くと、文字がうまいかへたかわかる。誤字脱字、言葉の使い方など、その人が全部出る。

作文力は、国語学力の総決算だ。一番大事なのは、作文力だ。だから、卒業論文、学位も博士論文。全部作文だ。書かないとパスしない。だから、文科省は作文力が大事だというが、授業では一番やらない。

ほとんどが文学の鑑賞。先生が楽だから。私はよく授業に呼ばれるが、作文の授業によられることはない。

今日のテーマは私から押しつけた。(笑) 一番大事なのに、一番やらない「作文」。これが今日のテーマだ。

作文は書かせると読まなければいけない。しかし、これが読むと腹が立つ。(笑)

あれほど漢字を教えたのに、漢字を使っていない。仮名遣いが間違っている。(笑)

一番良いのは書かせないこと。(笑) だから作文が盛んにならない。

昭和52年だったか、表現力重視になった時、作文に力を入れようと、授業時数の1/3は作文を充てると文部省はいった。私は作文用紙を作り、新学舎から出版したらけっこう売れた。ブームだから、2年ぐらいで終わり、今は名前も知らない。結局だめになった。(笑)

1/3を作文に充てていいぞといったから、時間がないと言い訳できない。でも、誰もやらない。ごんぎつねや大造じいさんばかり。(笑)

こんなに大事なのになぜやらないか? 教師が読むのがめんどくさいからだ。

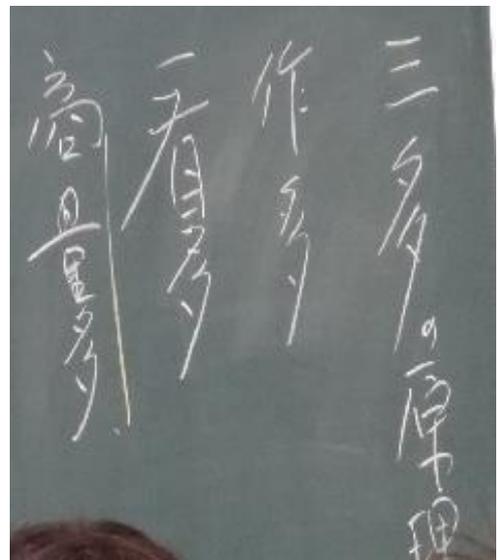
作文力を付ける原則は3つある。

「三多の原理」といい、中国での考え方である。

- | | |
|------------------|----------|
| 1 作多の原理 | たくさん書くこと |
| 2 看多の原理 | たくさん読むこと |
| と。読まなくては作文力が付かない | |
| 3 商量多の原理 | 評価のこと |

これが中国でいわれていること。

この原理をなるほどと思い、野口も三多を考えた。



第一が「多作」。

作文が好きという子どもはまずいない。中には変わった子もいるが例外。(笑)好きにするという理想は考えないで、とにかく書かせる。あきらめさせる。(笑)好き嫌いに関係ない。とにかく書かせるから文句を言うじゃない。その代わりに、言うことを聞けば、作文力が高いと言わせてやる。脅しておいて希望を持たせる。(笑)

欠席すると、「僕の欠席した一日」という題で提出させる。遅刻も届けを直筆で書かせる。早退も文書決済。(笑)それほど多くはないので、本気に書く。

書くことを日常化することが多作の原理だ。そうして、意識的、自覚的、目的的に書かせないと力は付かない。これがないとただの活動になる。

一番よい方法は、次のものだ。ぜひ実践してほしい。

【日直作文】

朝、日直が15分早く来て、自分の書いた作文を黒板に書く。

千葉大附属で20年教員をした。学級の児童数は、男子20人、女子20人。朝学校へ来て、1日は1番、2日は2番…というように、男子は前の黒板に、女子は後ろの黒板に書かせた。日曜日は家で書く。

21日以降は、1番から10番、次の月は11番から20番が、学校へ来たなら黒板に書く。基本的に、教育は強制だ。(笑)

教室に入ると、後ろと前に作文がある。公開研究の日も同じで、参加者がびっくりする。作文指導をしないと黒板が消せないなので、1時間目の算数ができない。

子どもたちは必ず読む。しかも、間違いがないかと、商量多の目で批判的に見る。人の悪いところを見つける能力は高い。(笑)

日直に「読みなさい」と言うと読む。しかも、望ましく読ませる。国語の学力は日常的に高めないとだめ。国語の音読が上手くても、社会科の教科書の音読が下手ではだめ。きちっと読ませる。他の子は目で追う。

黒板の「歩るく」を「あるく」と読むと、ニヤツとする。正解は「あるるく」です。

こうして毎朝やると、変な文を書かなくなる。先生の手間はかからない。みんな子どもがやるから。

書いたものは提出させる。中には良いものがある。非の打ち所もなく、中味も面白いのは保存に値する。○保というと子どもが喜ぶ。

良いものを蓄積し、年度末に文集を作ると傑作集になる。年度末に「文集を作るから書きなさい」ではにわか文集だ。1年間の積み上げで良いものが○保で選ばれたから自信がある。

黒板に書くと、いろんなことがわかる。

気の弱い子は小さい字で、図々しい子は大きく書く。計画的に書く子、上が下がって行く子。手がくたびれるからだ。体力を付けないといけない。(笑)

注意すると、よくなっていく。

これは本当に良いアイデアだと思う。

『作文で鍛える』(明治図書)という本を出したが、ここに書かれた日直作文を実践した人がかなりいる。最近では聞かないが、子どもは力が付く。

テーマを、「今月は手紙にする。」といって手紙を2か月もやると、「来月からは詩」という。ジャンルを2か月ごとに変えると子供が喜ぶ。日直作文は、商量多と多作を兼ねたよい方法だ。

野口の三多、2つ目は「楽作」。

多作は辞書にあるが楽作はない。野口の造語だ。

楽作の対義後は「苦作」。作文好きな子はいない。嫌なことは続けないから、苦を楽にする。書きたくないものを書かせるから4年生になって意欲が出ない。立派なことを書かないといけなさと考えるから、「2学期を振り返って」も反省を書かなくてはいけないと考える。ここを工夫しなければならない。作文指導はネタが問題だ。

ネタによって、子どもは面白がって書く。一番子どもが楽しんで書いたのは、「野口先生の欠点」。(笑) こういうのは面白がって書く。「本当に書いて良いの?」「絶対怒らない?」と聞く子もいるが許す。今まで書かなかった子が急に3枚ぐらい書く。(笑)

子供は作文力がないのではない。ネタと題が悪いのだ。

この作文は読んでもおもしろい。「あの子はあるな目で俺を見ていたのだ。」と楽しんで読むことができる。どうせろくなことは書いていないとニヤニヤしなから読めばいい。

苦作の作文は苦読になるが、楽作の作文は楽読になる。

子供は一般に作文力は弱いので、できるだけ喜んで書かせたい。一番広がったのは、「なりきり作文」。

ネタは前からあったが、私が命名した。これほどの子も喜ぶ。

たとえば、おばさんにもらったフランス人形、サッカーボールなど、子供なりの宝物がある。それを書いてみるというと3つ4つ書く。特にこれが大事というのを丸で囲めというと、「ぼくはサッカーボールだな。」などと書く。

そこから、「大事なものに自分になったつもりで作文を書こう」と指示をすると「僕はサッカーボール」という作文を書き始める。

なったことのない目で世の中を見るから想像の世界だ。

よく「本当のことを、正直に書くのだよ」というが、このなりきり作文はウソ大歓迎、でたらめOK。(笑) 子供は喜んでやる。

この頃の子どもは想像力が伸びる時期だ。十分なりきれるので、発達段階にも合う。

私の子が小さいとき、ウルトラマンが大好きで、着ぐるみみたいなパジャマを着るとベッドの上でウルトラマンになりきっていた。(笑)

サッカーボールになるから、どうしても持ち主の自分が対象になる。不思議と、自分の悪いことを書く。「乱暴で、始末をしてくれない」など、思いがけない道徳的効果がある。みな、自分をサッカーボールから見つめ直す。だから読むのも面白い。その後で、「僕からサッカーボールへ」という手紙を書かせると、反省する。道徳をやらなくてもよくなる。

反省すると、言葉遣いは心遣いが表れる。心遣いは、言葉遣いに表れる。だから作文は大事。これがなりきり作文。

「もしも作文」も子どもが喜ぶ。

「もしも10万円拾ったら」という題で作文を書く。拾うはずがないから書ける。(笑)

「もしも学級担任だったら」では面白くない。先生が読むのが楽しくなることを書かせる。

このように何を書かせるのかのネタが大事だ。これまでの「4年生になって」「夏休みの思い出」、これを打破する。

多作と楽作で力が付くか？これは活動をさせているだけだ。活動させれば作文力が付くかという、ある程度は付くが、それ以上は付かなくなる。

オリンピックの水泳選手は毎日何千メートル泳ぐ。マラソン選手は何十km走る。多く活動するのは基本。ただ、より上を目指すのなら工夫改善がいる。

活動主義ではだめだ。日本の国語教育はほとんど活動主義。昨日も授業を見たが、発言するが声が小さい。「それでは相手に対して失礼だ。もう一回言い直しなさい」という指導はまずない。

大きい声の子には大きすぎる、小さい子には聞きやすい声でと、変えていくことが教育だ。しかし、ほとんどそのままだ。

教育は、そのままにしておかないこと。もっと良くすること。そのまましておくから、学力が形成されない。

活動主義から、開発主義へ。多作、楽作、これでいいよというわけにはいかない。基礎基本を教えないと、崩れた多作、崩れた楽作が続くようになる。

「多作、楽作、基礎基本」の3つを柱にした。

多作は「作文くん」を開発した。今でも売っていると思うが、印税は入ってこない。(笑) 400字詰め原稿用紙で、紙が少し厚い。大人原稿用紙は折らないといけませんが、私は、B5版で、めいっぱいマスを大きくした。マス目の中に、目印を付けた。題名はここから、日付はここからと、邪魔にはならない大きさで、しかも、コピーをすると写らないインクを使っている。文字だけがコピーされるので、縮小コピーすれば文集の原稿になる。

ブームの時は売れた。その後は売れない。(笑)

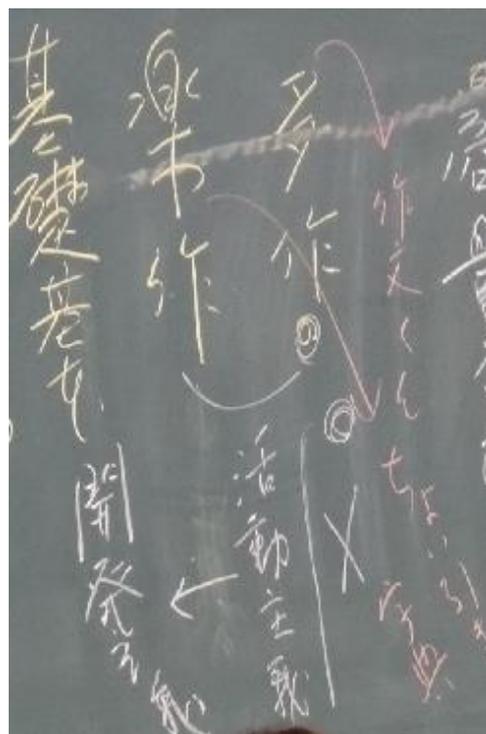
用紙を開発して、50枚で一冊。机に一冊、家で一冊持たせた。なくなれば200円と取り換えた。

楽しんで書くために、開発したのが「ちょい引き字典」だ。国語辞典は意味を調べる辞典。作文でほしいのは、漢字でどう書くかの字典。意味はいらない。言葉はたくさんいる。

子供用の「ちょい引き字典」を出そうとしたが、明治図書から「売れないよ」と言われた。著作集を作ったときに付録で付けたから、広く世には出なかった。

基礎基本は、これから話すワークで育てる。

作文を読んでいて、送りがなや段落を見てこれではだめだと思ったときに作ったのが『楽しく書くための作文ワーク』980円。これは売れに売れた。(笑)





今の考え方で作ったのが、これ。全然売れない。(笑) 2, 260円で倍以上。中味がよくても買わない。内容は数倍いいが、値段は大事だ。(笑)

最も売れないのが中学校用。ほとんど売れていない。誰も買わない。(笑)

沈んだ話になった。(笑)

具体的なワークを配ります。

これは、「ためし」、「本番」でセットになっている。

「ためし」を見てほしい。4年生にあるもので、段落の指導である。

私は60で退職してから、大学や専門学校で授業をした。大学生でも、専門学校生でも、段落を作らないで文章を書く人が多い。

初めは今の学生の力がなと思ったが、最近はそう思わなくなった。

国語の教師は何をしてきたのだろう。(笑) 日本は国語の授業が一番多い。低学年は、半日ぐらい国語をやるときがある。それくらいやっていて、大学生になって、段落も作られない。これは日本の国語教育の大きな問題である。自分の反省として、受け止めた。

「ためし」を見てほしい。

次の文章は、四つの段落に分けることができます。どこで分けたらよいでしょう。段落の分かれ目に〈例〉のようにカギマークを書き入れなさい。

4年 国語 書き方

4. B4 段落に区切って書こう

2 段落を分けて、右の文を書いてみましょう。

1 次の文章は、四つの段落に分けることができます。どこで分けたらよいでしょう。段落の分かれ目に〈例〉のようにカギマークを書き入れなさい。

(家族で出かけた時のことを書いています。)

まずは、海へ行って泳ぎました。この海は、とつてもきれいで、もぐらなくても海の底が見えて、妹もぼくも、その海的美しさにうっとりとしてしまいました。泳いだ後は、お母さんの作ってくれたお弁当を食べました。ぼくの好きなたらこのおにぎりがあって、うれしかったです。ウインナーやからあげなど、ぼくの好きなものがたくさん入っていました。旅館にもどつてから近くの川で釣りをしました。お父さんが二匹、妹とぼくが一匹ずつ釣り上げました。次の日の朝、起きてから、近くのお寺まで、みんなで散歩に行きました……

〇 時間が変わったとき (時間が経ったとき)
〇 場所・場面が変わったとき
〇 登場人物が変わったとき
〇 お話ががっつりと変わったとき

【学習指導】 段、句、群、文、句群、文脈、登場人物

【形成力】 段、句、群、文、句群の書き方にも注意し、文章を整えて書く。

(ひとりを指名) あなた読んでください。ただ読むのではない。あなたの最も良い読み

方で、声、表情、すべてに気をつけてください。

読む（内容は略）

一つ一つを、目的、自覚的、意識的にさせる。音読でも、こうすると上手になる。

大学生は下手だ。教えてもらっていないから。だから、活動主義はだめ。そのままにしておかないこと。開発主義が大切だ。

一つだけいうと、後半はOK。前半は語尾強調が目立った。その次からはよくなった。語尾強調はよくない。若い女性に多い。

「二度とそういう読み方をするな」というと、「野口に指されたら気をつけよ」と、そういう雰囲気を作ることが大事。

どこで分けますか？

（指名）「泳いだ後 次の日の朝」

正解です。得するヒントを読んでください。いい加減に読まないで、模範的に。

段落を変えるときは・・・

個別に書いてある。こういうのを束ねるのも大事。具体的、個別的を束ねることを抽象化という。一段落には話題は一つと教える。

右下の「形成学力」、これは前にもあった。国語の先生は意識をしていない。しかし、これは指導要領に書かれている。作文学力は、この本で網羅している。

左下に「学習用語」という言葉がある。「学習」は子どもがする。先生がするのは指導。子どもが学ぶために、ぜひ必要な用語が学習用語だ。

「段落、改行 時間 場面 場所 登場人物」

国語の授業では、こうした用語をほとんど教えない。

「夏休みの作文を書いてこい」「どうかくの？」「感じたままでもいい」これでは指導にならない。

指導の重要な一つが学習用語だ。

算数用語はよくわかる。分子が8、分母が15で $8/15$ 。 $23/15$ は仮の分数。約数が両方にあると公約数。公約数で割ることを約分という。

こうして学習用語を教えていく。これが身に付くと、学力になる。

私は、学習用語を教えないと学力が付かないと研究してきた。

「」で囲まれている部分を会話文という。会話文以外を何といいますか？分かる人は○、分からない人は×をノートに書きなさい。これを、選択的発問といい、片方は間違い。国語ではほとんど間違いといわない。算数は1ちがっても×。だから学力が付く。

○の人は指される可能性がある。（笑）

×の人は？（多数が挙手）

今日ここに来た人はすごい先生だ。それでもこれだけわからない人がいる。

（指名）「地の文です」

そう、文章は「地の文」と「会話文」でできている。

明治図書から、柳谷直明氏が、「学習用語」という言葉を使った本を出版した。

教職大学院で学んでいた時に論文を書いた。その頃は日本の国語教育界で意識されていなかったから、主任の教授から否定された。私は相談されたが、「それは、主任の教授が知らないからだ。教えるつもりで書きなさい。」といったら書いた。とてもよくできていて、それを明治図書の江部さんが見て、こんな良い論文はないと本にした。これが売れない。(笑)

みんな関心がないから。書名も悪かった。

『学習用語のカテゴリー化で国語学力を育てる』

今、光村の図書では、学習用語という語句が出てくる。

白石範孝氏が、学習用語という言葉を使った2冊目の本を出した。

私たちは全5巻で作った。しかし、江部さんが預かった原稿を返された。明治図書は、編集者のメガネにかなわないといけない。

そこで、俺たちで作ろうと「鍛える国語教室」研究会で考えている。

今は、本屋に負けないくらい、パソコンでできる。刑務所で印刷すると安い。1冊、千円ぐらいでできる。刑務所が一番だ。

ここまでいうなら、以前にも話したことをいいたい。

正男がトマトを8個持っている。花子が7個持っている。合わせていくつ？ 15個

「今日はどんな勉強したの?」「算数は正男君と花子の勉強だった。」「そんなことはないでしょう。」「そうそう、トマトの勉強だった。」母親は承知しない。「そうだ、 $8+7=15$ を勉強した。」「そうでしょ。」

前半が、教材、教材内容。

後半は、教科の内容。これが学力だ。

国語では、「大きなカブ」を学習した。昨日も大きなカブ、明日も大きなカブ。(笑)

「それで何を学んだの?」と母が聞くと、「今日は、おばあさんが手伝った。明日は孫が来るらしい。」(笑)

全部教材内容。教科内容は、子どももわからなければ、先生もわからない。

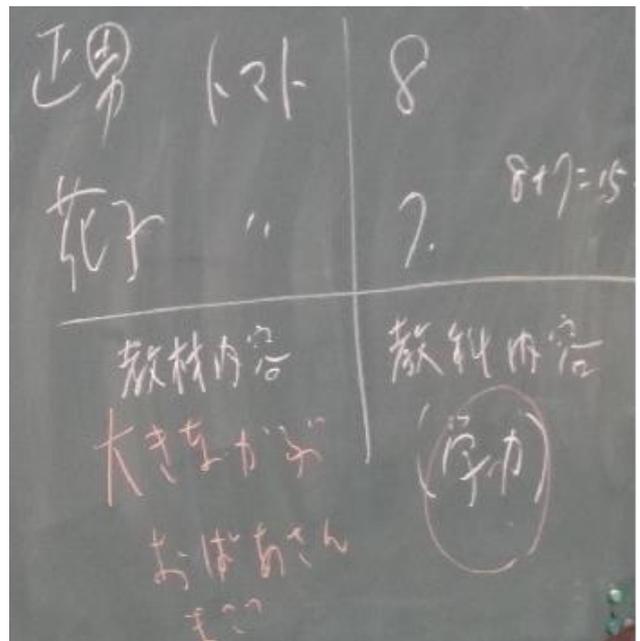
「今日はどんな勉強をしたの?」と聞いたときに、「強調や反復することは意味を強めるという勉強をした。」といえ、教科の内容だ。

このごろ、学習用語が定着しだしてきた。きっとブームになる。

算数、理科は学習用語が書いてあるが国語はない。

今、学習用語辞典を作っている。やがて役に立つと思うことは教えた方がよい。

語尾強調はだめ。一段落は一話題。会話文



と地の文。こうしたことをゲリラ的に、やっ払いこう。やがて整理すればよい。

配った資料の表が「ためし」。裏に行くと本番。

最高の音読をしてください。

1 「ためし」の問題を解いてまた「ヒント」を見て…

今の読み方、文句のある人は○、文句ない人は×を書きましょう。

(×の人に) どんな文句です? 「、」がない。

これは読み方でなく「、」が抜けているから、教材が悪い。

そのほかに? いない? ここが問題。だから活動主義。

子どもに読ませて、悪いところを評価しながら聞いて、直してやらないと。教育はそのままにしておかないこと。

「音量の問題?」あれくらいなら、×ではない。

「語尾強調だった。」

「早さが、もう少しゆっくりだと初めて来た人にもわかりやすい。」

読速という。もう一度読んで。たぶん同じだ。(読む) びたり同じ。

わかりましたか?

「 」で切らなかった。

その通り!

あなたは、「 」のない読み方をした。大学生は教えればピッタと直る。教えることは大事だ。

最近、悪いところを指摘するとむっとする子が増えてきた。間違いを指摘するともっとよくなる。これは学ぶことの原点だ。

指摘をし、直されたら感謝する。それが素直で、伸びるということ。これを教えなくてはいけない。

前のページの復習は、まとめていうと、一段落一話題。

「段落、改行、起承転結、原稿用紙」きちっと正しい言葉を教える。

というわけで、こういう本もある。その学年で必要なことが網羅されている。

ところで、こうやって作文を教え、子どもの作文力が付くと、困ることがある。

読まなくてはいけない量が増える。うんざりする。(笑)

一番良いのが、書せないこと。

それで、学力が付きながら、先生の負担にならないことを考えなくてはいけない。

まず第1条。

読むな

子供の作文を読まないことだ。(笑) 褒めて、読まない。時間がかかると、読むと腹が立つ。読まないで返すと親が怒る。読まないで見る。見たとたんに評価をする。三重丸、ちょっとどうかは二重丸。それでも気になるところがある。そこには線を引く。読んだかと思う。これでいい。15分もあれば、どんなに子どもが書いてきても大丈夫。

それよりも、子どもがどんどん書かせればよい。読まなければいけないから書かせないことよりも、書かせる方が大事。子どもの力を付けさえるのが私たちの仕事だ。

読まないで見る。これが第一条。

第二条。誤字を直すのをやめる

直しても子どもは見ない。けち付けてあるところは見ないものだ。それは、普段の国語の授業が貧しいから、作文に反映したのだ。

助詞の間違ひがあった。「こんにちは」は「は」。そうやって、授業の中で教えるための材料にする。

個別、特殊に教えることはあまり効果がない。これが二つ目。

三つ目、批評

先生の批評を読むとうれしがるのは子どもと親。あれをやめる。そのかわり、丸でサービスする。私は子どもの作文に赤ペンを入れない主義。私は、毛筆で書く。丸、「うまい」
こういふと、引っかかる人がいる。「先生、それではいけないのでは……」

私は答える。「そう思ったらあなたはやってみなさい。」

私は現実的な考え方だ。教師は忙しい。理科の実験を終えた中で、片づけてから教室へ行き、そういう中で作文力を付けていく。だから、長続きする方法を考えなくてはならない。読んだふりをして読まないとか、望ましいことだけを言っていてはできない。

時間がきたが質問は？「書かせる量は？」

400字。子供が負担を感じない。

「日直作文をやりたいが、中学校では難しいが？」

昼休み作文とか、工夫するしかない。要は、力が付けばよい。終わりにしましょう。